

フューチャー・デザイン

— 実践の現場から —

少子高齢化、社会インフラの老朽化が進行する一方、公的な財政も逼迫し、私たちは従来のようなサービスを受けることができなくなるかもしれません。

京都府は南部の10の市町に水を供給しています。一方で、これらの市町の人口減少や社会インフラの老朽化、財政の逼迫度合いなどは大きく異なっています。平成30年度において、京都府営水道連絡協議会は、10の市町の水道事業担当課の職員の皆さんを対象にフューチャー・デザイン・セッションを実施しています。これを受けて、長岡京市では独自に「水道事業の未来」を考えるフューチャー・デザイン・セッションを開始しています。他方、希薄になりがちな市民のつながりを求めて、宇治市では「かんがえようこれからの地域の未来」と題するフューチャー・デザイン・ワークショップを開催しています。

以上の〈将来から今を考える〉フューチャー・デザイン・ワークショップでは、〈今から将来を考える〉場合とは全く異なった提案がでてきます。長野県松本市でフューチャー・デザインを実践されている皆さんと共に、これらの経験を披露し、これからのフューチャー・デザインのあり方考えるのが〈フューチャー・デザイン：実践の現場から〉です。

日時 2019年 **8月7日（水）**

9：00 - 16：30（開場8：30）

参加費無料
入退場自由

会場 高知工科大学永国寺キャンパス
教育研究棟 A214

趣旨説明 フューチャー・デザイン×高知：持続可能な社会のデザイン

西條 辰義（日本学術会議第一部会員、総合地球環境学研究所、高知工科大学フューチャー・デザイン研究所教授）

報告1 京都府営水道連絡協議会フューチャー・デザイン・セッション

岸本 悠記（京都府府民環境部公営企画課）、加藤 雅俊・杉山 与和子（長岡京市上下水道部総務課）

報告2 宇治市・かんがえようこれからの地域の未来・フューチャー・デザイン・ワークショップ

杉本 隆之（宇治市産業地域振興部文化自治振興課）、勝木 駿（元高知工科大学学生）

報告3 松本市のフューチャー・デザイン

山口 正裕（松本市政策部政策課）、鷲見 真一（特定非営利活動法人 SCOP 理事）、
西村 直子（日本学術会議連携会員、信州大学学術研究院社会科学系教授）

報告4 サポーターからみたワークショップ・セッション

森 正美（京都文教大学副学長、総合社会学部教授）、
中川 善典（高知工科大学フューチャー・デザイン研究所准教授）